

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年5月7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3972500825
法人名	有限会社 グループホームあゆ
事業所名	グループホーム あゆ
所在地	〒786-0310 高知県高岡郡四万十町大正258番地2
自己評価作成日	平成21年11月25日
評価結果市町村受理日	平成22年6月11日

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成21年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3972500825&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの理念は、ご利用者にとって、「住み慣れた地域で安心して暮らせる家」を目指しており、ご利用者の残存能力を活かし、自主性と主体性を持った暮らしを支援しています。また、ホームの行事を通しての地域住民との交流や日常的な外出支援を行うなど、その人らしい暮らしの支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

中山間地域の自然に恵まれた環境のなか、職員は一丸となって、利用者が安心して暮らせる事業所づくりに取り組んでいる。また、日常生活の中で、利用者一人ひとりの能力と関心事を活かして、食事づくりや居室内の清掃など、利用者の主体性、自主性を重んじ支援することで、個々の役割として定着し、自己決定できるようさりげなく支援していることが、利用者の生き活きとした生活力につながり、地域のお祭りやイベントに参加するなど、地域の一員として溶け込み交流している。また、協力医と連携した医療体制、看取り経験もあり、利用者、家族との信頼関係も築かれた事業所である。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>事業所独自の理念があり、職員全員が理念を振り返りながら、利用者が今したいことを最優先し、利用者の自主性や主体性を大切に、自己決定できるよう支援している。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の神祭やイベントに参加するとともに、事業所で運動会やふれあい会等のイベントを実施しながら地域と交流を図っている。</p>	<p>町内会には入っていないが、運営者を通じて地域の情報を得て、地域のお祭り等にも参加している。近隣の住民の訪問があり、お寿司や野菜などの差し入れをもらうなど、地域の一員としての関係が窺われる。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症介護の学習会や疑似体験事業の実施、職業訓練と資格取得事業受け入れなど、協力力している。</p>	/	/
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議ではサービスのあり方等について話し合っており、そこでの意見はサービスに反映させている。</p>	<p>事業所から、行事や入居者の状況等の報告を行い、委員から質問やアドバイスを受け双方向的な会議になっている。また、行事のポスター掲示を委員に依頼するなど、協力を得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険担当係や地域包括支援センターの支援を得て、認知症の学習会やグループホーム連絡会等に参加するなど、日頃からの関係ができています。	利用者のことや、事業の運用など、折に触れて相談している。また、事業所の行事に参加してもらうなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に職員を順次参加させている。事業所内でも勉強会や話し合うなど、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修会や内部の勉強会を通じて、職員への意識付けを行い、日々のケアの中で身体拘束をしないよう取り組んでいる。利用者が無断で外出した場合は、様子を見ながらさりげなく声を掛けるなど、利用者の自尊心を損ねないように見守りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会には職員を順次参加させている。事業所内でも勉強会や話し合いをする等、虐待のないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用の必要性の有無については関係者と話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結前に本人と家族に面会し事前の説明を行っている。入所時にもさらに十分な説明を行い理解してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者、家族代表に参加してもらっている。また、ホーム内に投書箱を設置するなど意見や要望を反映させる機会を設けている。	行事参加の機会に家族会を開催し、家族のみで話し合われているが、事業所にはこれといった意見や要望は出されていない。なお、利用者や家族の代表が運営推進会議に参加しており、意見等を聞いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は随時、意見や要望を代表者や管理者に話すことができている。職員の中にリーダーを置き、意見や要望を集約できる体制を作っている。	月2回の職員会で職員から意見や要望を聞く機会を設けている。また、日々のケアの中で、気づきや意見等をリーダーが取りまとめ、話し合いをする仕組みがあり、出来ることから運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の勤務状況等を把握しており、それに見合った処遇をしている。職員の希望に沿った勤務割や、資格取得への働きかけ等もやっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は何らかの研修会に参加し、研修後はホーム内の全体会等で報告してもらい他の職員も共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会や地域の他の事業所との交流を図り、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所が可能になる時点で本人と直接面会し、現在置かれている立場を考慮したうえで、思いや不安について話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談には時間を取り、何度でも話を聞くようにしている。希望や困っていること、不安なことを受け止める努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所者が職員や他の利用者との信頼関係を築くうえで必要な対応を第一に考えている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で、ともに食事の準備、片付け、掃除、洗濯等を行っている。一緒に行動する中で、利用者の今までの暮らしから得た知識や技術を学んでいる。利用者が喜んでくれることを重点に利用者に関わっている。</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族からの要望はできる限り受け入れて信頼関係を構築しており、どんなことでも話ができている。生活歴から現状の把握に努め、家族との関係をより良好なものにし、共に支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの方々には、面会や運動会等、ホームの行事に参加していただくよう呼びかけている。</p>	<p>顔見知りの訪問美容師が訪れ、馴染みの商店等に買物に出かけ知人との会話を弾ませたり、馴染みの関係作りに配慮している。また、知人、友人が事業所を訪れたり、事業所の行事に参加を依頼するなど、これまでの関係が継続するよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	利用者同士で過ごす時間を多く取ることで馴染みの関係や支え合うことにつなげている。共有できる時間の大切さを重視し、日中は一緒に過ごしてもらえるよう支援している。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	退居後も、ご本人やご家族に面会したり、また、ご家族が事業所を訪問してくれるなど、関係を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者本人が思う普通の暮らしに近づけるために対話や行動の中から、思いの把握に努めている。	入居時に利用者のこれまでの暮らし方について把握し、日常生活の行動等を通して、利用者の思いや意向を汲み取ることにより、意思疎通の困難な利用者についても、出来るだけ本人の意に沿うよう利用者本位に検討している。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	家族、親類、近所の方々から話を聞き、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の表情、雰囲気、行動等、さまざまな場면을観察し、現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の職員全体会で個別の介護計画についてカンファレンスを行っている。家族とは電話や面会時に応談し、必要に応じて介護計画の見直しについて協議している。	利用者や家族の意向を聞き、職員の気づき等も踏まえて、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。サービス内容等も細やかに実践可能なものとなっている。長期目標6カ月、短期目標3カ月とし、利用者の状況に変化が生じた場合には、その都度プランの見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日々の生活がわかるように詳しく書かれ、職員全員で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望にはできる限り対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>当ホームでは、利用者に年間行事をより楽しんでもらうため必要に応じ、ボランティアや近所の方々に協力してもらっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関を家族に紹介し、納得のうえ、かかりつけ医を変更している。協力医とは十分な関係を構築している。遠方の医療機関を受診する場合は家族の協力を得ている。</p>	<p>利用者、家族の希望を優先したうえで、全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。通院介助は職員が対応し、専門医や遠方の医療機関への受診は家族が付き添っている。受診結果は申し送り簿に記載し、職員間で共有している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職員に准看護師資格を持つ者がおり、医療機関への相談や健康管理等もできている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者が入院した時は見舞いに行き、病状によっては医師、家族と相談し、早期退院に向けた支援をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時から終末期のあり方については十分な説明をしており、利用者、家族が希望される方向へ職員一丸となって対応している。</p>	<p>利用者、家族に看取りについて契約条項に基づき説明し、口頭で了承を得ている。看取りは開設以来4～5例行っている。医療連携体制加算をとっていないので、看取り対応等の指針は作成していない。</p>	<p>医療連携体制加算を適用していないので、運営基準上は終末期等に関する指針の作成は求められていないが、これまで協力医療機関との綿密な連携のもと看取りの事例もあるので、利用者や家族への説明や職員間で共有できるように、現在の取り組み方針の明文化について検討されることを期待したい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変や事故発生時の応急手当や初期対応について訓練や話し合いを行っている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時には避難について地域住民の協力を受けられることとなっている。避難訓練等を行うこととしている。</p>	<p>夜間訓練も予定しているが、事業所だけの避難訓練となっている。しかしながら、地域の自主防災組織において事業所支援が整備されている。避難場所、経路は確保されているが、非常用食料は準備していない。</p>	<p>災害時には、地域住民の協力が欠かせず、地域の自主防災組織の支援体制が整っており、事業所の避難訓練に地域住民の協力を呼びかけるとともに、非常用の食料等の準備は、高知県社会福祉施設地震防災対策マニュアルを参考に検討することを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時には利用者の許可を得るか一緒に入室している。介助を行う際には、側に行って会話をしながら介助にあたっている。排泄時の声かけも利用者の側で行っている。	利用者の尊厳を保ち、主体性を大切にしたケアに取り組んでおり、介護の際は、さりげなく声かけするとともに、利用者の判断で居室の施設が出来るようになっており、職員は利用者本人の意向を尊重しながら、見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力に応じて利用者自身が自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしてい、希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれや身だしなみができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々の能力と状況にあわせ、できる範囲で準備や片付けに参加してもらっている。</p>	<p>利用者の希望を聞き、頂き物や収穫した旬の野菜なども柔軟に採り入れている。調理は利用者の能力やそれぞれ関心のあることが役割として定着し、生き生きと積極的に参加している。職員は、利用者と同じテーブルで同じものを食している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>摂取量は把握できている。水分確保は食事時、おやつ、入浴後、外出後には必ず飲んでもらっている。お茶を好まない利用者や、摂取量の少ない利用者にはとろみを付けるなど工夫をしている。おやつ時には野菜ジュース、スポーツドリンク等も出している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後には歯磨き行っている。義歯は就寝前に薬液洗浄している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>紙パンツを使用している利用者は日中は布パンツにして表情、行動を早めに察知してトイレ誘導を行うなど、自立に向けた支援をしている。失禁時は他の利用者に気づかれない様に配慮している。</p>	<p>日中は紙パンツの利用者も布パンツを使用し、排泄パターンや尿意などを把握して、できるだけトイレで排泄するよう支援している。夜間は、利用者に応じてポータブルトイレを使用するなど、排泄の自立に向けた支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは毎日行っている。便秘時には個別に対応している。便秘予防には、繊維質の食物を調理している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の声かけは毎日行うが、時間に関係なく利用者の希望に沿うよう支援している。入浴の意味が理解できない利用者には浴室まで一緒に行き、意思を確認している。	夜間入浴も含め、利用者の希望に沿っていつでも入浴できるよう支援している。入浴を拒否する利用者には、無理強いせず、声かけのタイミング等に工夫しながら支援している。5日に1回ペースで入浴する利用者には、清拭や足浴と更衣は必ず行い、清潔に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者の好きなように過ごしてもらっている。就寝まではテレビを見たり、会話を楽しんだり、時には夜食を食べるなどしている。寝付かれない利用者には職員が添い寝をすることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の知識は、薬局からの説明書により理解できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>役割は共同生活の場において、身体状況に応じた支援をしている。季節や気分に合わせて外出支援もできている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人の希望と気構えを考慮して対応している。散歩やピクニック等希望に沿った外出支援をしている。</p>	<p>天気が良ければ毎日全員で事業所周辺を散歩している。いつもの散歩コースを一人で行く利用者もいるなど、見守り支援も併せて行っている。商店が近くになく、ドライブがてら少人数で出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物、お祭り、イベント等に出かける時は、利用者にお金を持たせている。日頃は事業所において各利用者の金品の管理をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>荷物が届いた時や、会話の中に何度も家族の名前が出てくる時は職員から電話をするように声かけしている。はがき、年賀状の支援もしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には、できる限り季節感を持たせるため、四季折々の花を飾ったり、利用者が共同で作った季節の行事に関する作品なども掲示している。</p>	<p>共有スペースには、どっしりと安定感のある低いテーブルと椅子が置かれ、生活に落ち着きを与えている。また、クリスマスの装飾や利用者の作品を飾り、季節の花を活けたり、利用者がゆったりと和みながらくつろげる空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下、ベランダには縁台や椅子を置き、一人または気の合った利用者同士が思い思いに過ごせている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時にはできる限り本人の使い慣れた物品を持ち込んでもらっている。また、日頃、利用者が事業所で作ったもの（絵、書等）を自室に貼るなどしている。</p>	<p>使い慣れたタンスやチェスト、洋服掛けなど、利用者一人ひとりの生活に馴染んだ個性的な居室づくりに配慮し、清掃も行き届いており、居心地よい環境となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関、廊下、浴室、トイレ等には手すりを設置し、出入り口にはスロープ、踏み台等を置いている。トイレ、浴室の表示は大きく共用空間に表示してある。また、居室のドアには利用者の名前を掲示している。</p>		

V アウトカム項目		グループホームあゆ	
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない